

もりあい け じゅうたくしゅおく
盛合家住宅主屋

- ◇ 指定日 平成19年10月22日
- ◇ 所在地 津軽石
- ◇ 所有者 個人

盛合家は、江戸時代の元禄年間(1688-1703年)頃から「南部鼻曲り鮭」で知られる津軽石川鮭漁の瀬主や鰯小舌網漁などで隆盛をなし、廻船業・酒造・質屋なども兼業し、盛岡藩の給人(士分)ともなった三陸沿岸随一の名家・豪商です。



江戸時代中期の建築となる家屋は木造平屋建で、屋根は切妻造鉄板葺、外壁は板張りです。屋敷は、町屋（商家）造りの「御下居」「常居」と、武家屋敷の「玄関」「小座敷」「次の間」「お茶室」「御座敷（奥座敷）」によって構成されます。御座敷の南面と西面に縁側があり、軒深い底には緑色の束石を用いて、庭園との一体感が図られています。

寛政9年(1797年)に盛岡藩主が巡視の際に宿泊しており、御座敷・便所・浴室などが当時のまま保存されています。また、享和元年(1801年)には伊能忠敬測量人一行も宿泊するなど、多くの文人墨客が訪れ書句や絵画が残されています。